

小学校教師による小6 社会科 “世界の中の日本の役割” の教材研究— 1枚の写真を通して

赤道直下の国, エクアドル共和国の森林 (上)

作成：矢野越史 (やの えつし/兵庫県家島町立家島小学校 教諭)

寸評：山下宏文 (やました ひろぶみ/京都教育大学 教授)*

語り：「この写真はどこだと思いませんか？ 南米のエクアドル共和国の山の中です。地図帳でエクアドル共和国の位置を調べてみてください。赤道が通っていることがわかります。

木に注目して写真をよく見てください。不思議に思ったことはありませんか。ここは赤道の通っている国ですよ。アジアやアフリカの赤道の通る国を思い出してください。

そこは密林のジャングルで、「熱帯雨林」と呼ばれています。でも、ここに見られる木は、寒い地方に育つ「針葉樹」という種類なのです。では、なぜ赤道の通る国なのに、「針葉樹」なのでしょう？ ここは、空にはコンドルが舞い、大地をリャマが走り回る、空気の薄い、気温の低い、標高の高い場所なのです。日本の富士山の高さは3,776mですが、頂上には夏でも雪が残っていることがあります。ここは、富士山よりも高い標高



▲標高 4,000m 付近のエクアドル共和国の林地

4,000m くらいの場所なのです。

さて、ここで伐採された木の一部は、外国に輸出されています。主な輸出先は、アメリカ合衆国やヨーロッパ諸国です。日本は、木材を東南アジアやロシア、カナダなどの国から輸入していて、エクアドルからはあまり来ません。エクアドルから日本に輸出しているものもたくさんあります。バナナやエビなどです。スーパーマーケットの商品で、エクアドルの国名を探してみてください。」

意図 (矢野)：写真の場所がエクアドル共和国であることを伝え、地図帳で赤道の通っている国であることを確認する。赤道直下の地域に針葉樹が生えていることに疑問を持たせ、気候や地形などの地理的要因が、植生に影響することを理解させる。また、木材の流通から「国際貿易」に着目させ、日本や他の国々との関係を考えるきっかけとしたい。さらに、日本の森林についても興味を持たせたい。

寸評 (山下)：作成者は、海外青年協力隊として約2年間エクアドル共和国に滞在してきた。本教材は、そこで実感したことを基に小学校社会科第6学年の「世界の中の日本の役割」の学習を想定して作成してもらった。この学習では、日本とつながりの深い国の人々の生活の様子を調べることになっている。その際、人々の生活を支えている自然のあり方や自然とのかかわり方をきちんと踏まえることが重要である。「森林」の教材は、国際理解の学習においても重要な役割を果たせるものと考えている。

* 〒612-8522 京都市伏見区深草藤森町1 Tel 075-644-8219 (直通)